

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成 19年 6月 13日

【評価実施概要】

事業所番号	4072600408		
法人名	社会福祉法人 みやこ老人ホーム		
事業所名	みやこの苑 グループホーム		
所在地 (電話番号)	行橋市大字二塚584番地 (電話) 0930-22-0231		
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会		
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F		
訪問調査日	2007年4月7日		

【情報提供票より】(平成 19年 3月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 6月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	8人	常勤	8人, 非常勤 0人, 常勤換算 7.2人

(2) 建物概要

建物形態	併設 (単独)	(新築) 改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	0円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(3月 15日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名	
要介護1		2 名	要介護2		1 名	
要介護3		2 名	要介護4		2 名	
要介護5		1 名	要支援2		0 名	
年齢	平均	82.5 歳	最低	74 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大原病院 門司歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園地帯の小高い丘に母体の施設、系列の複数のサービス事業所、そして、その一番奥にグループホームがある。静かな環境に位置し、ゆったりと時間が流れている。高齢者の一番楽しみにしている食事作りに力をいれている。ホームの畑で取れた新鮮な野菜を食卓に出したり、食事の器に凝ったり、気候の良い季節には戸外に出て食事をしたり、利用者が意欲を出したり、喜ばれることに一生懸命努力されている。利用者が昔使っていた七輪で魚、もち、茄子など焼く時、七輪の火おこしを職員が教えてもらうなど、教えたり、支えられたり、双方向の関係で支援がなされている。七輪での料理や戸外での食事に利用者の目には輝きがあり、その喜びに職員はまた頑張るといように良い循環が見られる。また、家族が野菜を持ってきたり、家族から利用者の好きな料理のつくり方を教えてもらったり、味見をしてもらったりなど、家族との関係も一層深まっている。介護計画作成では、センター方式とCFの視点でのプラン作成に挑み、利用者一人ひとりに適ったケアに取り組んでいる。また、介護計画を意識してケアするようなシステムづくりをしている。“楽しいことなら何でもしよう”をモットーに利用者との喜びを共有しながら支援をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前調査項目による外部評価結果の改善項目について、職員みんなで話し合い、改善に取り組まれている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は管理者、計画作成担当者、介護主任で記載している。自己評価は項目一つひとつ点検していく過程が重要であるので、全職員で取り組まれるとが望まれる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は家族・区長・地域包括支援センター・介護保険課(オブザーバー)が参加され、2ヶ月に1回実施されている。利用者のサービス状況や活動状況について報告され、質問や意見交換が行われ、運営推進会議を活かした取り組みが行われている。今年度も実施に向けて、会議規程でメンバーは既に決められ、取り組む体制が整えられている。更に、ホームの質の向上が図れるようテーマを決めて会議するなど、内容的に工夫されることが望まれる。市の行政とは運営推進会議以外でもホームの運営やサービスの課題に向けて共に取り組んでおり、共用型通所介護についても協議中である。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	利用者の暮らしぶり、職員の移動、金銭管理の出納帳は定期的なホームだよりや家族の訪問時に報告している。家族の訪問時に、コミュニケーションをとり、なんでも言ってもらえるような雰囲気づくりをしており、意見や不満などを聞くように努力をしている。より一層家族の意見が聞けるように、自由な雰囲気の家族会の設置への声かけをしてはどうか。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	併設母体施設は大きく、設立以来の歴史の中で地域によく知られている。母体施設で行われる地域との交流行事に系列サービス事業と一緒に参加している。散歩の時、近くのお寺に立ち寄り、交わりの時をもっている。ホームが敷地の一番奥に位置していることや自治体には加入していないことから地域の人たちとの関わりが少ない。利用者の生活が豊かになるための交流を積極的に行いたいとの考えをもたれている。ホームとして地元の人たちと交流する“場”を具体的に検討し、取り組まれることを期待する。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営の方針では、“地域との交流”ということが入っているが、理念は4年前に職員みんなで作った利用者主体の3つの理念を基にケアをしている。	○	昨年4月よりグループホームは地域密着型サービスとして位置づけられたので、そのことを踏まえて職員全員で理念の見直しが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に掲示されており、職員はいつでもしっかりと言うことができ、日々の生活の中で、その日その時を大切にしたり暮らしやケアを心がけ、提供されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	母体施設は大きく、地域によく知られているが、グループホームはあまり知られていない。母体施設の地域との交流行事に参加し、交流を図っている。散歩の時、近くのお寺に立ち寄り、交わりの時をもっている。自治体には加入しておらず、また、ホームが敷地の一番奥に位置していることから地域の人たちとの関わりが少ない。利用者の生活が豊かになるための交流を積極的に行いたいとの考えをもたれている。	○	ホームが母体施設建物の一歩奥に位置しており、近所の人々が立ち寄りやすいことは難しいが、地元の人たちと交流する“場”を具体的に検討し、更に取り組みされることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前外部評価結果の改善項目について、職員みんなでも話し合い、改善に取り組まれている。今回の自己評価は管理者、計画作成担当者、介護主任で記載している。	○	自己評価に関しては項目一つひとつ点検していく過程が重要であるので、全職員で取り組むことが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回実施し、利用者やサービス状況や報告について意見交換を行っている。内容的には活動状況報告が主な内容となっている。今年度も実施に向けて、会議規程でメンバーは既に決められ、取り組む体制が整えられている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への市の参加は毎回ではないが、オブザーバーとしての出席がある。共用型通所介護について市と協議中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度について家族へは入居契約の際、説明をしており、職員に対しては学習会を実施している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりは定期的なホームタよりで報告したり、家族の訪問時に報告をしている。職員の移動あるときは報告しているが、近年、移動はない。金銭管理は出納簿を作成し、報告をしている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に、コミュニケーションをとり、なんでも言ってもらえるような雰囲気づくりや意見や不満などを聞くように努力をされている。家族会は設置されていない。	○	より一層家族の意見が開けるように、自由な雰囲気の家 族会の設置への声かけをしてはいかかでしょうか。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との馴染みの関係を重視し、母体施設間での大きな移動は行っていない。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	現在勤務している職員の性別は男性・女性、年齢は20歳代から50歳代である。職員の得意とする分野でその能力を楽しみながらいきいきと発揮している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者の人権を尊重するために系列施設内研修で人権教育を行ったり、市の人権教育に参加している。また参加後の研修報告をして、全職員の人権啓発に努めている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修委員会があり、年間計画を立てて研修を行っている。その研修会に夜勤者以外の全職員は参加している。OJTでは、特に毎日ケアプランの実施状況記録をつけており、職員のプランに対する意識付けになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	1市2町によるグループホーム協議会を今年1月に立ち上げ、3月にも会合をもっている。スタートしたばかりであるが、研修会も開催する予定にしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所をしてもらったり、“ためらいケース”には自宅外泊したり、徐々に馴染めるように支援している。利用者が徐々にホームに馴染み、安心した入居となるよう共用型通所介護について市と協議中である。		
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	社会の発展変化の中で職員の知らない生活のあり様、昔の生活道具の使い方などを人生の先輩として教えてもらったり、支えたり、その時間を共有しつつ関係性を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人や家族から希望や意向等を聞いたり、日々の生活の中の言動から思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員の気づきや意見、家族の要望など一人ひとりの状況を良く知る関係者と話し合っって介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画変更、更新時には職員、家族の意見を聞き、見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	毎月、家族の迎えで自宅外泊する入居者があり、心身の機能低下で移動、移乗介助が必要な場合は、職員が自宅まで付き添うようにしている。その他、家族の要望や入居者の状況に応じた支援を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医については家族と話し合って了解を取り、事業所の協力医2名(週2日)の往診を受けている。必要に応じて受診する場合もある。家族の希望で在宅時のかかりつけ医を受診している入居者もあり、受診困難で往診を受けることもある。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	病状悪化等で重度化した場合は家族の希望を確認しながら、職員、かかりつけ医等関係者との話し合いを繰り返して、終末期の対応方針の共有を図っている。過去に4名の入居者の終末ケアを行なっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報取扱規則を作成して職員への秘密保持が徹底されている。また、職員の入居者への言葉かけや誘導は穏やかでプライバシーを損ねない対応ができています。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で一人ひとりの表情や様子から“希望・思い”を汲み取り、入居者に寄り添う支援が実践されている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者が毎日買い物に出かけて食材を購入し、苑の畑で栽培した野菜なども使って昼食作りをしている。台拭きだけする人や食後の片付けのみする人もいる。また、食器も固定されてなく、弁当箱や折箱などで盛り付けを工夫し、毎日の食事を楽しめるように努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、午後4時の入浴時間になっており、一日おきの入浴や毎日入浴するなど一人ひとりの希望に応じた入浴支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	魚や茄子を焼くための七輪の火の起こし方を入居者に教えていただいたり、大工職人だった入居者には小さな角材などを準備して大工仕事をしていただくなど、一人ひとりの生活歴を活かした役割、楽しみごとを大切にしたい支援ができています。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	好天に恵まれた日は昼食を弁当にして時々苑庭で食事をしている。また、苑周辺を散歩したり、季節毎に桜や藤、つつじ見物などに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は自動ドアで車イス利用者が一人で外に出るとスロープがあり危険であるが、手すりや柵を工夫して玄関に施錠をしないよう努力されている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設施設と一緒に年3回の火災非難訓練を実施しており、内1回は消防署との合同訓練を実施している。地域消防団にも訓練の連絡をするとともに、緊急通報連絡網に地域消防団員2名の名前が記載されており、地域消防団との協力体制がとれている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分チェック表が準備されて、毎日リビングで記録されている。「記録は水分摂取の必要性を職員に意識付けるため」と徹底が図られている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には和ダンスが収納庫として置かれており、大きな堀コタツは車イスや膝痛で座れない入居者が使いやすいように脚を嵩上げして、自由にくつろげるようにしている。また、手づくりの布暖簾も素朴な雰囲気ので居心地よく過ごせるように工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ハード面の床(ゆか)が家庭的雰囲気に馴染まないように見え、全体的に生活の場として、少し殺風景にみえた。アセスメントから家族の協力を得て、家具、テレビ、思い出の家族写真、日本人形など馴染みの物が持ち込まれて、その人らしい居室づくりとなっている。</p>		